

好評だった第5次活動

大震災から3年が経って、訪問先の女川町・連携先の仙台豊齢学園で窓口となる担当者の異動があり、学校などの環境も変化しました。公演内容や日程の調整が進まず、担当理事が2度も現地に足を運ぶなど、第4次までとは違う現地の反応に少なからず戸惑いました。

一方、今回初めて訪問した女川の二つの保育所では、「昔遊びのボランティアが来てくれたのは初めて」と大歓迎をうけました。建ったばかりの復興住宅集会所では、私たちの〈料理とディスコン〉がオープニングイベントとなり、予想を超え



▲5日、女川町の献花台で犠牲者の冥福を祈る

女川・須田町長と懇談

3日早朝、〈わ〉のメンバーと協会の吾郷・佃氏が女川町役場を表敬訪問。須田善明町長と懇談しました。町長からは「毎年女川を訪れてくれてありがとうございます」との言葉があり、堺理事長も「できる限り女川との繋がりを大切にしたい」と応じました。町長は、住宅や漁港の復興デザインを示しながら「災害に泣かない町づくりをしたい」と熱い思いを語ってくれました。

◆プレゼント 〈わ〉の理事が持ち寄ったあめ玉・ボールなど100人分を持参。保育所と児童センターの子供たちにプレゼントしました。復興住宅集会所には交流会で使ったディスコン用具3組とたこ焼き器2台をグループ〈わ〉の名前で寄贈してきました。福祉振興協会からもしあわせの村産のラベンダースティック、月下美人の鉢植え、クッキー詰め合わせなどを訪問先に贈りました。

◆メッセージ 竹の台小・甲緑小・岩岡児童館・井吹台児童館の子供たちが作成した手紙やイラスト入りのメッセージを女川小と閑上小、名取が丘児童センターに届けてきました。

る参加者に沸きました。関係者から「有意義で楽しい催しだった。来年もぜひ」と感謝されました。いずれも、私たちの

活動内容、手際の良い運営ぶりを評価されたものと思い、自信になりました。振興協会とは今回も一部日程で合同公演。プログラムに双方の特色を織り込んで一体感を演出しました。ドレミちゃんはダンスに風船アートに活躍。子供たちの人気は抜群でした。仙台豊齢からは今回もお手玉グループが参加。一緒に昔遊びをしました。ただ、与えられた時間内で目いっぱいプログラムを組んだので、3者とも「もう少し時間があれば」との思いを強くしたようです。今後の検討課題になりました。

初参加の堺理事長は「現地を踏んで、皆さんの反応を目の当りにして、私たちの活動が少しは役立っていることを実感した。これからも何とか続けたい」と今回の活動を総括しています。(み)

協会チームの感想は

協会チームは1～2日に仙台・荒井小、東六郷小へ。3～4日は〈わ〉と合同で女川、名取を訪問しています。4日間の感想を佃孝司氏に聞きました。

「プログラムは予定通り、うまくいきましたね。〈わ〉や仙台との連携もまずまず。もう少し時間に余裕があればよかったが…。今回、ドレミちゃんにダンスの手ほどきをしてもらい、子供たちは大変喜んでくれた。今後も一緒にやれるような内容を、と思っている。〈神戸とは絆がつながっています〉と東六郷小の校長がしみじみ語っていましたが、〈お土産にももらった月下美人が咲きましたよ〉とのお便りが次々届き、私も深い絆を感じています。来年は節目の5年。支援内容を考え、継続したいと思っています」。

派遣費用はサポート募金で

第5次チームの派遣費用は福祉助成金が不採択になったのでサポート募金の残高(110万円)を充てました。主な内訳は宿泊5日分215000円、鉄道運賃443832円、レンタカー・高速99287円、荷物発送31710円、食材35721円、贈答・土産(ディスコン3組、たこ焼き器2台等)59726円、昔遊び材料10828円、献花・謝礼・文具50288円で合計94万6392円でした(食費・雑費は個人負担)。◆サポート募金賛同者(4月1日～7月10日分・敬称略)佐藤淑子(生12)千円、佐々木可津(美16)5千円、俵貴志子(生16)8千円、森考生(国11)5千円、植田収(福7)2千円、フラパガイドG720円、増金スミ子(福11)1万円、堺汎(園15)5千円、民謡クラブ1万円、茅中英一(生11)5千円、黒坂泰(生9)千円。